

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 三郎の家
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県出水市
記入者名 (管理者)	林 朱美
記入日	平成 19年 7月 15日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	地域の中で暮らすことのイメージを職員一人ひとりが具体化させ、認知症はあっても日常あたりまえの生活が維持できるよう支援していきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	理念に基づいたケアができていないか、定期的に点検し実現に向け努力していきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	ホーム便りや運営推進会議の中でも理念を分かりやすく説明し、ご家族様や地域の方々に伝えていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	催し物がある時にはご近所の方にも声をかけるようにし、行き来がしやすいような雰囲気作りを心がけたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	地域行事に参加したことがないので入居者の方の状況をみながら、積極的に参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症研修会や勉強会などで、事例発表を行っている。研修等の受け入れも行っている。	○	地域住民の方に対しても、認知症ケアの啓発に努めていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組み質の向上に努めている。	○	外部評価の結果をミーティングで報告し、全職員で改善計画をたて、その実施に向け取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催回数が少なかった。事業所からの報告後、会議メンバーの方から意見・要望を頂くようにしている。明らかになった課題については次の会議までに報告できるよう努めている。	○	2ヶ月に1回の開催を目指し、話し合いを通じ会議メンバーの方から率直な意見を頂き質の向上につなげていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	平成19年7月3日、厚生局・市町村合同の現地指導を受けたことにより、事業所の取り組みをより具体的に知ってもらうことができ、様々な助言を頂くことができた。	○	市町村担当者に事業所の実情等を伝える機会を作るなど関係作りを積極的に行っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会を開き職員の理解を深めるようにしている。	○	権利擁護の概念を正しくとらえ、無意識のうちに権利侵害が行われていないか、日常の1つ1つの場面で点検していく必要がある。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開き職員の理解を深めるようにしている。	○	絶対に許されない行為として全職員が遵守に向け取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>時間をとり丁寧に説明するよう努めている。特に、利用料金、起こりうるリスク、個人情報保護、医療連携体制の実際については詳しく説明し、同意を得るようにしている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者の方の表情・言葉・態度から、その思いに近づけるよう努めている。</p>	<p>○ 入居者の方が、運営推進会議のメンバーや外部の方に意見や思いを伝えられる機会を作っていきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご家族の来訪時や電話で、入居者の方の状況を伝え、ご家族からの質問・疑問等にもお答えするようしている。金銭管理は出納帳に記入し、ご家族にサインを頂いている。</p>	<p>○ 定期的にお便りを発行し、暮らしぶりやエピソードなどを伝えていきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族の方が意見を言いやすいような雰囲気を心がけている。家族会や運営推進会議の中で出た意見は、ミーティング等で話し合い反映している。</p>	<p>○ ご家族の方が職員や外部の方に意見を言える機会を作り、出た意見や不満等はそのままにせず。サービスに活かしていきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティング、勉強会、個別面談等で職員の意見を聞くようにしている。</p>	<p>○ 職員の要望や意見を聞く機会を作り、働く意欲の向上や質の向上につなげていきたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>柔軟な対応ができるよう、余裕をもった人員配置をしている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的には顔なじみの職員によるケアを心がけている。新しい職員が入った場合は、入居者の方をはじめご家族にも紹介している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所独自では系統的な教育は行っていない。事業所外で開催される研修には、なるべく多くの職員が参加できるようにしている。参加した職員は報告書を書き、職員会議で報告するようにしている。	○ NPOみなまたの本年度の大きな課題として事業所内での研修を計画している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入り2ヶ月に1回の勉強会に参加、事例検討や意見交換などを行い、質の向上に努めている。他のグループホームの見学や研修の受け入れもしている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間はゆっくり休めるようスペースを確保している。日常や個人面談の中で職員のストレスや体調等について把握するよう努めている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	就業規則により職員の労働条件は整えられている。資格取得に向けた支援を行っており、取得後は資格が活かせる環境を整え、向上心を持って働けるよう支援している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用の相談があった時は、必ずご本人に会い心身の状態や困っていること、ご本人の思いが把握できるよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用の相談があった時は、ご家族の話をよく聞き、思いを受け止めるよう努めている。そして事業所としてどのような対応ができるかを含め、話し合いをしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思い、状況を把握した上で、必要とされている支援が何なのか見極め、場合によっては担当のケアマネージャーを通し他のサービス機関の紹介を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用の相談があった時はご本人とご家族に見学をすすめ、当ホームの雰囲気をみてもらっている。緊急性のある場合でも、できる限り何度か遊びにきてもらったり、ご家族と一緒に宿泊してもらおうなどの工夫をして、当ホームに慣れて頂けるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の方の喜怒哀楽に関心を寄せ、その方の思いに近づくことができるよう心がけている。 お互いが協働しながら生活できるよう場面作りや声掛けを行っている。	○	共に暮らす者として、ご本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びを知り分かち合い、支えあう関係を作っていきたい。 すべて、職員がしてしまうのではなく、入居者の方の得意分野や興味ある活動の中で多くの出番があるよう配慮していきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会の機会を利用し、状況を報告、情報を共有するよう努めている。	○	入居者の方・ご家族・職員が交流する機会を増やし、家族会の充実も図れるよう支援していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日頃の状態や、健康面に変化があった時は報告・相談するようしている。時には、ドライブをかねて自宅を訪問するなど家族との関係が疎遠になることがないよう気をつけている。	○	定期的にお便りなどを発行することにより、ホーム内の様子や入居者の方の状況を知って頂く機会を増やしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居当時は、それまで親交のあった方の家を何度か訪問したことがあり、現在は年に数回あちらから尋ねてきて下さっており継続的な交流ができています。行きつけだった店やなじみの場所に出かけることもある。またなじみの人が尋ねてきやすいオープンであたたかい雰囲気作りを心がけている。	○	これまでの生活の状況を把握し、電話、手紙、ハガキ等の手段や会いに行ったり訪問してもらおうなどの方法でつながりが途切れないよう支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ソファーでの座る位置や食堂のテーブル席など、利用者同士の関係を把握した上でセッティングしている。1つの作業を皆で協力して行う中でお互いを思いやる言葉かけを聞くことができる。お茶や食事の時間など、職員も一緒に会話を持つようにしている。	○	利用者同士の関係を把握し、その日の感情の動きに配慮した対応を心がけている。 手の不自由な方、自分よりも年上に見える方が茶碗拭きをしているとすぐに手伝ってくれる方がおり、思いやりやお互いさまという雰囲気が漂っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院のため契約が終了した方に対しても職員がお見舞いに行ったり家族からの相談を受けたり、継続的な付き合いを心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉や表情から、思いや暮らしへの希望や意向をくみとるよう努めている。	○	ご本人の言葉やご家族からの情報により、ひとりひとりの思いや、生活への意向を把握するようにしていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅を訪問したり、ご本人やご家族から情報を得るようにしている。入居後もプライバシーに配慮しつつ、ご本人や面会にこられた方などから聴き取るようにしている。	○	情報が不足している方もいるのでさらなる情報収集が必要である。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活の中で、できることを知り把握するようにしている。	○	お一人おひとりの生活リズムを理解した上でメイハリのある生活が送れるよう支援していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族の思いをもとに、職員全員の意見を反映させたプランを作るよう努めている。	○	ご本人やご家族へ思いを伺っているが、今後もさらなるご意見を頂き、ご本人らしさがもっと出るような介護計画を作成したい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご家族やご本人の要望をふまえ期間終了前に見直しを行い、必要に応じプランを変更している。また状態に変化がみられた時は、ミーティングで話し合い、現状に合った計画をたてるようにしている。	○	必要に応じた変更を行っているも、ご家族の同意までは頂けていないことがあった(7月3日の指導時に助言いただく)。ご家族様からご要望を頂くだけでなく、利用者の方の生活をご家族様共々一緒に考え、検討していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態は経過記録にその日のリーダー、夜勤者が記録、特記すべきことは申し送りノートに記入し、職員間の情報共有を徹底させている。	○	これまでの記録のあり方を見直し、アセスメント・プランに活かせるような書式を検討、限られた人のみの気付きだけでなく、すべての職員の気づきも皆で共有できるよう工夫していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	平成18年4月までは、当グループホームにデイサービスを併設しており、“通って、泊まって、住み込んで”を実践していた。(現在9名の入居者のうち5名が、デイサービスの利用者であった)経営上の困難さがあり、昨年閉鎖になる。	○	医療連携加算をとっている。看護師が中心となり、各医療機関との連携に努め、健康管理を行っている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察、消防、公民館長、民生委員の方々への協力を依頼している。運営推進会議の中でも、関係者の方と意見交換する場を設けている。散歩の途中、ご近所の方が気軽に声をかけてくれたり、時には遊びにきて下さることがある。	○	安全でよりよく暮らすために、多様な地域資源を把握し、活用できるように努めたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の状況や希望に応じ、訪問マッサージや訪問理美容のサービスを受けている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に市の介護保険課の方に参加してもらい、いろいろな助言を頂いている。	○	運営推進会議のメンバーに入ってもらい、情報を交換する中で協力関係を築いていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医だけでなく、ご本人やご家族の希望するかかりつけ医の医療を受けられるよう支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に知見のある神経内科の先生と連携をとり、助言・指示を頂いている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師であり、常勤のスタッフにも准看護師が2名おり、往診時の対応・受診介助・日常の健康管理を行っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時、入院後、退院前の病状説明の時は、管理者がご家族と一緒に参加し、早期退院に向けて皆で協議している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末に対する対応指針を定め、必要に応じ、ご家族・医師・看護師と話し合う機会を作り、対応方針の統一を図っている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	普段より、健康管理についてご家族や医療機関と密に連携するよう努めているので、チームとしての支援体制はできている。	○	当ホームとして、できることできないことを知り、ご家族やかかりつけ医とともにチームとして支援していきたい。重度化や終末期についての学習会等に参加し、知識を深めたい。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に移られたケースはない。別の施設から移り住まれる際には、事前訪問・電話・文書等で、詳しい情報をいただき、住み替えによるダメージを防ぐよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	敬語、丁寧語を使うよう心がけており、ミーティング等で職員ひとりひとり振り返る機会をもつようになっている。特に排泄時の援助は細心の配慮をするよう心がけている。秘密保持に関しては入職時、全職員から誓約書をとっている。また、入居者の方の側では記録をしないようになっている。	○ 誇りやプライバシーを損ねるような声掛けをしないよう徹底し、日々の関わりを常に点検、お互い注意しあえる職員間でありたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	何かお手伝いを頼む時など、決して無理じいせず、入居者の方の意思を尊重している。	○ 思いや希望を表出できるような雰囲気を作り、自己決定できる場面を増やしていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務中心の流れにならないよう、お一人おひとりのペースを大切にしている。しかし、入浴時間やパジャマに着替える時間は、体制上また安全上お一人おひとりのペースではできていない。	○ さらなる個別性のある支援を目指していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご家族がその人の好みや生活スタイルを考慮し、衣類など身につけるものを準備して下さったり、職員が、ご本人が好みそうなものを購入することがある。外泊の時に、なじみの理美容院を利用されている方がいる。訪問理美容を利用される方も職員が決めるのではなくご本人の希望が聞き入れられるよう配慮している。	○ 日頃から、ご本人のこだわりを大切に、おしゃれやお化粧品を楽しんで頂けるよう支援したい。職員も節度を守りつつおしゃれに気を配る余裕を持ちたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者の方と同じテーブルで会話を支えながら食事をするようにしている。一方的に食事を提供するのではなく、部分的ではあるが準備～後片付けまで入居者の方と一緒にやるよう努めている。	○ 入居者の方が食事に集中できる程度に、楽しく過ごせるような工夫をしたい。食事や後片付けなど一緒に行う回数を増やしていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒を飲む習慣のあった方は、入居後も楽しめるよう支援している。タバコは本人の希望時、他の入居者の迷惑にならない場所で、ゆっくり吸えるよう配慮している。お酒、たばこの管理は職員で行っている。	○ お一人おひとりの嗜好品の把握に努め、他の入居者への影響を考慮しつつ、好みのものを楽しめるよう支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	自ら意思を伝えることが困難な方は、職員が排泄パターンを把握し個々に応じた誘導方法で排泄を促している。排便コントロールがうまくいっていない時は、医師の指示のもと下剤や座薬を使用することがある。	○	人権の尊重の実践ができているかどうかは、排泄の援助のあり方で評価されると考え、職員はケアを行っている。失禁の場合は他の方に気づかれないよう、細心の配慮でさりげなく介助している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、入浴は午前中に行っており、状況に応じ午後から入浴の場合もある。入浴を拒否された時は、何が原因だったか分析し、次回の誘導に役立つよう職員間で情報共有している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者の方の状況に合わせて、落ち着かれる場所で休息がとれるよう配慮している。布団に眠られる方もいればベッドで眠られる方もおり、それまでの習慣やリスク面も考慮・ご家族との話し合いの上、決めている。寝つけない場合は添い寝をしたり、一緒にお茶を飲みながら安心されるまで側にいるよう心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居前の生活歴やご本人・ご家族からの情報からお一人おひとりの個性・能力・好みを知り、その方の力が発揮できるような場面をつくるようにしている。	○	お一人おひとりの役割の他に、楽しみや気晴らしの支援ができるよう努めたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理がある程度できる方は、家族の了解のもと現金を渡している。食材や日用品の買い物に同行してもらい、一緒に品物を選んでもらっている。その時を利用し、自分の好きなものを買われる場合は職員はさりげなく見守り、必要に応じアドバイスしている。	○	お金の所持や使い方(買い物、外食など)への支援について、ご家族とも話し合いながら検討していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の希望にそってではできていないが、散歩やドライブなど、なるべく戸外に出かけられるよう心がけている。時には自宅を訪問し、短時間ではあるが家族と交流する機会をもてるよう支援している。	○	安全面を考慮した上で、日常的に外出ができるよう検討していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	昨年はオレンジ鉄道の旅を計画し実施することができた。計画にあたり、入居者の方・職員が食堂に集まり、和やかなムードの中、家族会議的な話し合いをもつことができた。	○	ご家族も含めた外出を計画してみたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話での通信支援が主である。遠方よりプレゼントが届いた時など、必ずお礼の電話がかけられるよう配慮している。	○	ご本人の希望に添い、電話や手紙・ハガキが出せるよう支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の制限はなく、いつでも気軽にきて頂けるよう配慮している。他の入居者の方に気兼ねされることがないように、居室や眺めの良い広縁でゆっくり過ごしてもらっている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を行うようにしている。またミーティングの中で、自分達のケアを振り返り身体拘束に含まれるケア・言葉のかけ方をしていないか点検している。	○	職員の知識にバラつきがあるため、さらに学習する機会をもち、共通認識がもてるよう努めたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上、夜間の施錠は行っている。日中は玄関の網戸にチャイムを取り付け、入居者の方が外に出られたときは止めるのではなく、さりげなく声かけし一緒についていくなど職員間で連携をとりながら見守りを行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜ともに職員が入居者の方を見守りやすい位置にいて、所在や様子を把握するようにしている。	○	目配りが欠けている時があるので確実に行えるよう、職員一人ひとりの意識と、チームワークを高めていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は鍵のかかる戸棚にしまい、刃物類も直接目に触れないところに置いてある。	○	注意が必要な物品を職員で把握し取り決めを作りたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットノートを作り、ささいなことでも記録し、皆で情報共有している。場合によっては緊急のミーティングを開いたり事故報告書を作成し、事故の再発防止に向けて取り組んでいる。	○	日頃よりお一人おひとりの状態から予測される危険を検討し、事故を未然に防げるよう努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て救急蘇生法の講習会を行っている。転倒時や急変時の対応についてマニュアルを作っている。	○	必要な対応方法についてマニュアルを作成し、実際の場面に活かせるよう周知徹底を図りたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て年2回、入居者の方と一緒に避難訓練を行っている。その中で避難経路の確認を行い、消火器の使い方の指導など受けている。	○	災害に備えた備品等の準備や、体制作りを行いたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時に予測されるリスクを、ご本人とご家族に説明し理解を得ている。日常の中で危険だと判断した場面があった時には、ご家族にも相談し一緒に対応策を考えるようにしている。	○	状況の変化に応じご家族との話し合いを行い、安全を確保しつつ自由な暮らしが送れるよう支援していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、バイタルチェック等で健康状態を把握し、異常がみられた時は管理者に報告している。状態によっては主治医に報告し早目の対応を心がけている。体調の変化があり、急に病院受診した時は必ず家族にも報告している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いずれの入居者の方も何らかの薬を飲まれている。薬は命に直結する大切なものであるということをすべての職員が認識し、管理にあたっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事や飲み物に乳製品をとり入れ、また水分量が適切かどうか確認している。排便困難時は、ウォシュレットで肛門を刺激したり、腹部マッサージなどを行っている。	○	活動状況を見直し、散歩・体操などの運動・家事など身体を動かす機会を増やしていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	お一人おひとりの力に応じ声かけや介助を行っている。就寝前は義歯を洗った後、洗浄液につけ夜勤者で管理している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は毎日、月単位経過表に記入している。水分管理が必要な方はチェック表を使って主治医からの指示が守れているか確認している。	○	お一人おひとりに必要な食事量や水分量がとれるよう支援していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種は、入居者の方だけでなく職員も毎年受けている。感染症対策のマニュアルを作成し、特に感染が予想されるものに対しては早目の予防・対策に努めている。	○	マニュアルを充実させるとともに、予防・対策についての学習会を開き、知識を深めたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や布巾類は毎晩、消毒している。まとめ買いはせず新鮮なものを使用し、充分加熱するよう気をつけている。	○	衛生管理におけるルールを作り、職員の共通理解のもと実行していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に花を生けたり周囲にプランターを置き、季節感を演出している。オープンで家庭的、施設のイメージはない。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方が好まれるリビングダイニングは、一般の家庭で使われる家具を配置している。食事を作る時の音や匂い、茶碗を洗う音など生活感のある暮らしを心がけている。食卓には、入居者の方が庭で摘んできた草花が飾ってある。テレビの音量は小さくし、食事の時は必ず消すようにしている。日ざしがまぶしい時はカーテンで調節している。	○	お花などで季節感を味わって頂いているが、壁面や空間を利用し、入居者の方と一緒に季節に合った飾りつけをしていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の方の個性や人間関係にあわせ、ソファの配置を工夫している。広縁にもソファとテーブルを置き、思い思いの時間が過ごせるよう配慮している。窓からすぐ海が見える場所が喫煙コーナーになっており、喫煙家の方に喜ばれている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた家具や寝具類を持ってきてもらうようにしている。新品の家具等を準備される方もいるが、置き時計・写真・人形などなじみのものも持ってきてもらうよう協力をお願いしている。	○	その人らしく過ごせる部屋になるよう、ご本人やご家族と一緒に考え工夫していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	起床後は窓を開け換気を行っている。お一人おひとりの健康状態に留意し、こまめに調節するようしている。共有スペースの冷暖房も入居者の方々の様子を見ながら注意深く行っている。	○	必要に応じ換気を行い、入居者の方の状況に合わせて適正な温度調整をしていきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・廊下・浴室・居室の出入りに手すりを設置、また廊下の一部やトイレの床にすべり止めテープを貼っており、転倒防止に努めつつ自立への配慮をしている。	○	定期的に環境の見直しをしていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	夜中に目覚め外の景色をみて不穏になる入居者の方に対しては、雨戸を閉めるなどの対策をとっている。混乱の原因となった環境や物品に対しては速やかに対処している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭の畑で季節の野菜を育てており、入居者の方と一緒に収穫してその日の食材に使っている。玄関近くのプランターに、入居者の方や近所の方と一緒に花を植えることもある。	○	畑を整理し、季節の野菜や花々が楽しめるような環境を整えたい。また、畑の横のスペースを利用し、作物や花々を見ながらお茶や食事を楽しむなどの工夫で心身のリフレッシュも期待したい。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員がすべてやってしまうのではなく、生活のあらゆる場面でご本人の持っている力を引き出し、暮らしの中で活かしていけるよう支援しています。優しさや明るい笑顔、丁寧な言葉づかいをモットーに、すばらしい環境にふさわしい質の高いケアを実践できるよう努力を重ねていきたいと思っております。